

日本建築学会関東支部 第21回提案競技

美しくまちをつくる、むらをつくる

入賞作品集

開府500年、甲府市の中心部を
新しい感性で創造する

「建築・まちづくり提案の部」主催：日本建築学会関東支部

「写真コンクールの部」主催：日本建築学会関東支部山梨支所

後援：甲府市、山梨日日新聞社、山梨県建築士会、
山梨県建築士事務所協会

提案競技主旨

実在の市街地を対象に、今後の「まち」をテーマに建築・都市の専門家、地域に暮らす子供から内外の大人までが参加する提案競技、コンクールです。

こうふ開府 500 年という歴史ある甲府市の中心街のことをみんなで考え未来につなぐ提案を以下の 2 部門で幅広く募集いたしました。

今回は、甲府市中心部を対象として、日本建築学会関東支部と甲府市が協力し、審査を行い、表彰式、作品展示会（甲府市庁舎、東京建築会館）を開催しました。

建築・まちづくり提案の部主旨

甲府市は武田信玄の父信虎が甲府に館を定めてから今年で 500 年にあたります。甲府市では開府 500 年祭として大きく祝うとともに、本年度、中核都市に移行いたしました。リニア新幹線が 10 年以内に開通し甲府市内にリニア新駅が設置されると、東京から距離的に近い割には（現在、特急で新宿から 1 時間半、リニアが開通すると品川から 30 分）、周辺を山に囲まれ自然が多い等の利点がありますが、地方都市が共通で抱える中心商店街の空洞化と郊外大型商業施設によるスプロール化、人口減少、空き家、空き店舗の増加等問題も抱えています。中心商店街にはリノベーションによる若者向け店舗やシェアオフィスなども見かけられますが中心商店街全体としては停滞しています。また、リニア新駅が現在の甲府市中心より 8 キロほど離れていてリニア駅周辺が開発されるとますますスプロール化が進むのではないかと懸念もあります。第二次世界大戦の空襲により中心街は焼失し戦後 70 年日本の復興とともに、発展してきた昭和の市街地ですが、積み上げられたインフラをうまく利用しながら甲府らしいまちづくりが大切だと考えます。基本的には生活者が快適に暮らせる甲府市、甲府市中心街を目指しその結果として観光交流人口も増える事を期待しております。新しいアイデアで次の 500 年につながる夢のある提案を募集いたします。

建築・まちづくり提案の部課題

甲府市中心部の活性化の提案

建築・まちづくり提案の部対象地

甲府市中心街エリアを対象とします。

審査委員

特別審査委員：樋口 雄一（甲府市長）

審査委員長：田中 勝（山梨大学大学院教授）

審査委員：望月 伸（甲府市まちづくり部長）

青柳 茂（写真家・日本広告写真家協会）

雨宮 健一（山梨県建築士会長・竜巳一級建築設計事務所代表取締役）

藤田 義治（山梨県建築士事務所協会会長・山形一級建築士事務所代表取締役社長）

建築まちづくり提案の部 表彰式 2019 年 12 月 2 日（月）甲府市役所 1 階市民プラザ市民活動室



建築・まちづくり提案の部

賞	作品名	入賞者
最優秀賞	500 年分を紡ぎ、導くまちへ	正会員 大和田 卓 株式会社日建設計
		正会員 大場 卓 東京大学大学院修士 1 年
		正会員 山崎 美樹 川田工業株式会社
特別賞	特化した景観の創出 —ぶどう緑化による甲府市中心部の活性化—	正会員 中田 幸仁 有限会社竜巳一級建築設計事務所
		正会員 利根川哲也 トネガワ建築設計事務所
優秀賞	階層往来都市『甲府遊楽街』	正会員 石井航太郎 株式会社松田平田設計
		正会員 池部 辰樹 株式会社松田平田設計
	緑地健康都市 ～Green Belt～	正会員 田中 綾子 株式会社馬場設計 主任
		正会員 小田切佑希 株式会社馬場設計
	甲府城リング 城と街の新たな物語を作ろう	正会員 丸茂 邦仁 M&K 建築事務所有限会社
		正会員 新谷 憲司 有限会社新谷建築設計事務所
佳 作	まちなか栽培	正会員 秋元 優介 芝浦工業大学大学院修士 1 年
		正会員 豊嶋 達也 芝浦工業大学大学院修士 1 年
		正会員 松本 宗磨 芝浦工業大学大学院修士 1 年
		正会員 前田 英寿 芝浦工業大学教授
	甲府の記憶 —甲府上水再生物語—	正会員 北川 駿介 千葉大学大学院修士 1 年
		準会員 岡野 晶 千葉大学工学部 4 年
	県産木材でつなぐ甲府 500 年の歴史と未来 — C L T が作り出す木に包まれたまちづくり の提案—	正会員 清水 亮輔 清水建設株式会社
	「中心市街地居住」×「トラフィックセンター 新設」×「観光資源の連続化」	正会員 宮坂 達 だるま建築設計事務所代表

審査総評

第21回提案競技では、甲府市の開府500年を機に「甲府市中心市街地を新しい感性で創造」することが問われました。甲府の歴史・文化をどう生かすか、住みやすいまち、住みたくなるまちとはどのようなもので、それをどう実現していくのかのアイデアを求めるものでした。甲府市中心市街地では現在、人口空洞化、商業活動の停滞、空き家・空き店舗の増加等が進んでいます。北口と南口との関係に配慮し、リニア新幹線の開通等を見通しながら、500年という長きにわたって紡ぎあげられてきたまちを次の世代にどうつないでいくのか、今回の提案競技では「甲府のまち育て」のアイデアや具体案に注目が集まりました。

第1次審査では応募20作品を9作品に絞り込みました。応募作品はいずれも水準が高く、活性化の視点やアプローチは多彩でした。第2次審査（公開）に進んだ9作品は甲府市中心市街地の歴史・文化を読み解き、現状・課題を的確に分析し、独自のアイデアや構想をのびのびと展開していた点が特徴的でした。各提案は甲府市中心市街地に積層された「資源」を最大限に活用することにより、ヒト・コト・モノの織りなす「賑わい」を取り戻し、生かしきれていない、あるいは磨ききれていない中心市街地の魅力を引き出そうとする意欲的な提案が多かったと言えます。

今回の入賞作品9点は、甲府市中心市街地の再生に向けた優れたアイデアを有する作品として高く評価されたものです。既存の歴史的要素を生かし、それらを連結したり物語性を与えることにより、その価値やまちづくりの潜在力を高めていこうとする発想が多く見られました。

最優秀賞「500年分を紡ぎ、導くまちへ」はJR甲府駅東側の舞鶴通りに着目し、中心市街地に眠る歴史資産やまちづくり計画を紡ぎ直すことで活性化への足がかりを得ようとする提案でした。JR甲府駅や旧山交百貨店との接続確保により、人の流れを文化・歴史・商業エリアへと誘導し、平和通りに新たな役割を与えようとした点が評価されました。特別賞「特化した景観の創出」はぶどう緑化に着目した景観形成と賑わいづくりの場の提案で、甲府らしさと、提案内容の実現に向けた取組が始まっていること等が支持を集めました。優秀賞「階層往来都市『甲府遊楽街』」は中心商店街を「階層」として捉え、空間・機能・仕組の組み合わせによって新たな魅力づくりに挑戦した点が評価されました。優秀賞「緑地健康都市」は緑地が生み出す種々の効果（拠点づくり、健康・安心・潤い等）が期待される提案でした。最優秀賞「甲府城リング」は甲府城及び石垣を生かしたまち歩きによるまちづくり提案で、甲府城を拠点に全方位的なまちづくりへの波及を期待させる内容でした。（審査委員会）

500 年分を紡ぎ、導くまちへ

甲府駅周辺には開府以来 500 年の間に蓄積された、多彩な既存インフラや建築のストックがある。

本案は、市街の南東部に広がる繁華街や城跡関連施設の活性化をはかるために、甲府駅からこれら分散している既存のノードを活かすことで、まちの魅力を最小限の開発で「紡ぐ」提案である。500 年分の都市計画遺産＝プランニング・ヘリテージを紡ぎ直すことで、新旧の空間が共存しながら更新を重ねるプラットフォームを築く。

(192 字)



1 ポテンシャル

首都圏からの訪問者

働き方改革や副業が可能になる企業や外国人観光客の増加に伴い、**地方都市への観光や二重生活を試みる人々が増えている**。そんな多様なライフスタイルの需要に対して、首都圏から 1-1.5 時間程度で訪れることができる甲府の利便性の高さは、他の地方都市に比べてポテンシャルを秘めている。実際、2011 年を境に**甲府駅の利用者は急増しており、その半数以上の人々が定期外利用者であることから、観光等に訪れている人が多いことが伺える**（図 1）。



図 2 / 都市構成分析図

2 課題

行政区とお城が動線の壁に

駅利用客が増える一方で、駅から市街地や観光地への徒歩でのアクセスは分りづらい。行政区や城跡が駅から南東部への動線を妨げているためだ（図 2）。また、様々なノード施設はそれ自体は魅力的だが、その周辺とのパブリックスペースとの文脈が弱い。よって、駅から市街地へと人を導くためにはこれらノードを活かしながらそのまわりのパブリックスペースに手を加えることで、この壁を越える動線が築くことができる。

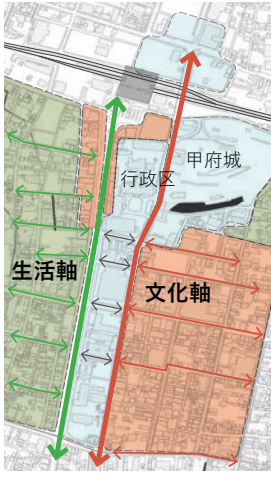


図 3 / 2つの性格の異なる軸
赤：商業、緑：住居、青：行政＋歴史

3 提案 1- 都市軸の整理

「生活軸」と「文化軸」

甲府駅南側は、東西それぞれに特性がある。平和通り以西は住宅

街やバス停・駐車場など、舞鶴通り以東は文化施設・繁華街が集中している。本案ではこの二本を都市の中心軸と捉えて各々の特性から、**平和通りを「生活軸」、舞鶴通りを「文化軸」と定義する**（図 3）。

4 提案 2- 駅から市街地へ

500 年分のストックを紡ぎ、駅と市街を繋ぐ文化軸

市街地活性化を検討するにあたり、駅から南東部への人の流れを考えると重要となる。そこで、**本案では現在まちの裏側となっている舞鶴通りを文化軸の主動線として提案する**。この道の北側はかつて城郭の内部、南側は城下町

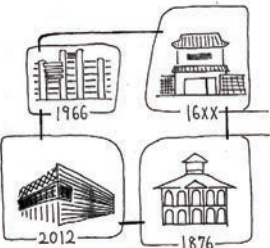
の中心軸として機能し、特に繁華街はかつての武家地の町割りの色濃く残している。古い建物は現存せずとも、色んな時代の歴史的蓄積が駅周辺に残された都市空間は貴重だ。本案によって、**文化軸から市街地へと人を導き 500 年分の都市計画遺産＝プランニング・ヘリテージを紡ぎ直す**。それは、新旧の空間が共存しながら更新を重ねるプラットフォームとなる。



図 4 / プランニング・ヘリテージとしての甲府駅周辺。赤線はかつての町割り

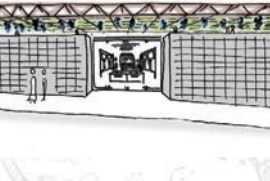
a 駅北の文化広場

駅の北側には山梨文化会館、山手御門、藤村記念館、県立図書館、広場など様々な施設が集結している。特に山手御門前の芝生広場は文化会館と一体的に利用でき、山手門のエントランス広場として機能する。



b ぶどうパーク

明治初期に勅業試験場としてワインを広めるために活躍していた甲府城址。現在はその面影を残さないが、甲府中心市街地でワインの生産を学習し、ブドウの生産を体験できる場として、再び人々が集う場となる。

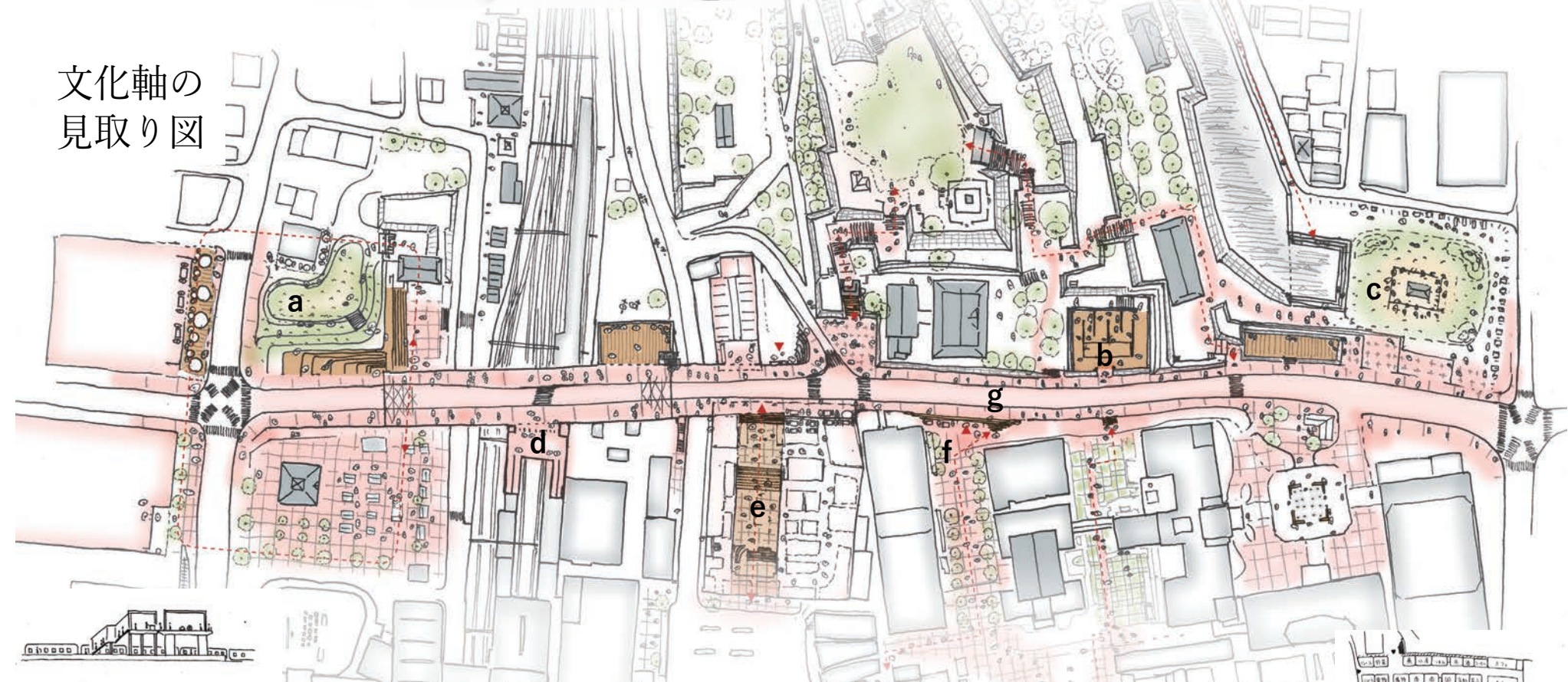


c イベント広場

追手門の南に広がる広場ではお祭りなど地域と観光のイベントを開催する。時には仮設店舗やキッチンカーがやってきて、広場にさらなる賑わいをうむ。都部再現されたお堀は、親水空間を市民に提供する。



文化軸の見取り図



d 甲府駅 舞鶴口設置

既存ホームの東側から橋梁へと、新たな改札口を設け、駅から舞鶴通りへの動線を確保する。まちの新たな顔となる。改札の先に広がる山梨文化会館、甲州夢小路、舞鶴城を含む景色は、人々をまちに誘い込む。



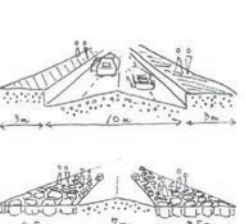
e 東西の段差解消としての旧山交ビル

旧山交ビルは甲府駅前空間のアイコンである一方で、東西移動の妨げになっている。吹き抜けを増やし、東西の通抜けを平面的・断面的解消する公的インフラとしての役割を担わせることで、必然的に旧山交ビルの利用者が増える。



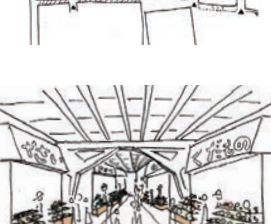
g 歩きやすい歩道の整備

既存の四車線道路を二車線とし、歩行空間を広げることで、歩きやすくすると同時にカフェのテラスとして利用したり、ちょっとしたイベントの開催が可能となる。また、石畳で舗装することで、文化軸としての景観を整える。



f 高架下マルシェ

これまで裏となっていた高架下空間を活用し、活気あるマルシェを作る。駅前という地の利を活かし、地元の農産物などを販売。新たな地域住民の活躍の場として観光客も引き込むとで賑わう。



■活性化のために

地域の活性化には「その地域に合った地道な環境景観美化活動」が有益であり、それには官民が協力して取り組むことが必要であると考えます。さらに、地域の特色と魅力を加えるべく、山梨の特産物である「ぶどう」による緑化計画を推進し、「ぶどうによる駐車場緑化・壁面緑化・ランドマークに合わせた緑化」など、単なる環境景観美化のためだけでなく、山梨の特色を前面に推し出した「ぶどう緑化による景観形成」を官民協働で取り組むことを提案いたします。

■特産物による都市の景観形成

どの国においても、自然景観を除くと、伝統的な建築物や特産物でその地方の景観が形成されています。例えば、フランスの垣根作りのぶどう畑、スペインのパレンシア地方のオレンジ街路樹、フロリダのヤシの並木、ギリシャのレモン街路樹などで、それらは街や建築物と一体となってその地方の特色ある景観を形成しています。そしてこれらの景観は、その地域の人々にとっては原風景であり誇りとなっています。また、来訪者にとってはこの景観が大きな魅力になっています。

■甲府市の緑化における現状

甲府市は、周囲を山々に囲まれているため緑豊かな都市だと思われがちですが、市街化区域内における樹木緑被率は2.3%であり、全国の市街化区域の樹木緑被率に比べて低い状況にあります。また、中心部における公園も少なく、緑を通していかに憩いの場を造っていくのが課題となっています。

■ぶどう緑化計画

STEP 1ーぶどう緑化で「景観づくり」

甲府市中心部を山梨の特産物である「ぶどう」で緑化します。水遣りや害虫の駆除・剪定など、手間がかかりますがその分愛着がわきます。甲府でしかない景観を創り出すため、いろいろな手法を使ってぶどう緑化します。

- ぶどうカーテン
- ぶどう棚緑化
- ぶどう棚ゲート
- ぶどう緑化生垣
- 簡単鉢植えぶどう
- ぶどうアーケード



多くの人のサポートを受けて「ぶどう」を育てます。

STEP 2ー収穫したぶどうで「ワインづくり」

甲府市中心部を緑化した「ぶどう」を収穫してワインを造ります。中心街の空き店舗を利用して街中ワイナリーを設立し、ワインを醸造します。世界に一つしかない甲府生まれのワインを造ります。



STEP 3ーワイン飲み放題で「よっちゃバル」

甲府生まれのワインを片手に、みんなが集う場所を提供します。

- よっちゃバル・ストリート
- よっちゃバル・ラウンジ
- よっちゃバル・ガーデン



賑わいのある甲府市中心部に生まれ変わります。

特化した景観の創出

ーぶどう緑化による甲府市中心部の活性化ー

■ぶどう緑化による効果

山梨の代表的な特産物である「ぶどう」を使って、地域独特の景観を創り出すことにより、多岐に渡る地域活性化への効果をもたらします。

●効果1ーすばらしい景観が形成されますー



山梨県民は日常的な光景としてあまり意識していませんが、県外や国外からの来県者にとってぶどう畑・ぶどう棚の風景は富士山にも匹敵する山梨の独特な景観です。これを甲府市中心部の新しい景観形成に利用しない手はありません。中心市街地の点から線へとぶどう緑化をつなげる事により、大きな観光資源を得ることになります。

●効果2ーエコ時代を先取りできますー



地球温暖化に対して、アサガオやヘチマ・ゴーヤなどを使ったグリーンカーテンやビルの壁面緑化・屋上緑化などが全国各地で行われています。今回の提案では、これらの緑化を「ぶどう」で行うことで、より地域特性を生かしたものになり、先進的なエコシティーを目指すことができます。

●効果3ー賑わいの演出・集う場所ができますー



官民協働で行う地域活性化のシンボルとして、ハード事業や単発のイベントではなく継続できる事業として位置づけができます。各々の特性を生かしたかわりの中で、より多くの人々を巻き込み、収穫したぶどうを使ったワインやジャムなどの生産品への展開やイベントの開催などが期待できます。

●効果4ー自分の街をもっと好きになりますー



この提案は、再開発事業や区画整理事業のように大規模な予算を必要としません。住みよい都市というのは「まちづくり」という言葉で語られるように、ハードとソフトの両面で、地域の人々を巻き込んだ事業に成功した都市のことをいいます。今回の提案である「ぶどう緑化」により、地域の人々が自分の街に誇りを持てるようになることが最終目的の一つでもあります。

■集う場所「よっちゃバル」の提案



①よっちゃバル・ストリート

甲府市中心部で造ったワインを筆頭に、工芸品から食品まで、山梨県全ての特産品を取り揃えた屋台が数多く集まる通りになります。週末を歩行者専用道路にして子供からお年寄りまで、みんながお祭り気分が集まる「よっちゃバル」になると思います。



②よっちゃバル・ラウンジ

ぶどう緑化に囲まれた癒しの空間で、ワインはもちろん、ワインに合ったおいしい料理を食べながら、ゆっくりとした時間を過ごすことができます。ワイン県山梨の社交室的な場所になる、ちょっと大人の雰囲気か漂う「よっちゃバル」になります。



③よっちゃバル・ガーデン

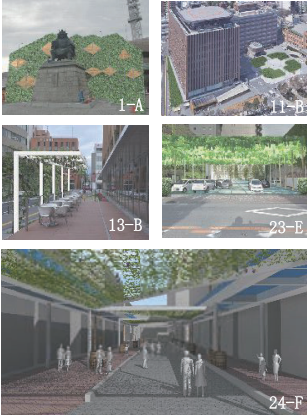
仮設コンテナを利用したマルシェです。初期投資が少なく時代の変化にも対応しやすいのが特徴です。飲食店・ファストフード店・バーなどを中心とした「よっちゃバル」になります。ぶどう棚や壁面緑化によって整備された気持ちの良いカフェで、ランチや気軽なディナーをワインと一緒に楽しんで下さい。

■甲府市中心部ぶどう緑化計画



- 1-A 駅前信玄公像の背景にぶどうカーテン
- 2-B 甲府駅南口広場をぶどう棚緑化
- 3-A 甲府駅東側高架陸橋にぶどうカーテン
- 4-B 甲州夢小路東京ガス南側通路をぶどう棚緑化
- 5-C サドヤワイナリー入口にぶどう棚ゲート
- 6-C 平和通り 8番街の店舗入口にぶどう棚ゲート
- 7-D 平和通りバス停に鉢植えぶどう
- 8-C 県庁西側玄関にぶどう棚ゲート
- 9-B 県庁議会棟東側内庭をぶどう棚緑化
- 10-B 県庁旧館東側内庭をぶどう棚緑化
- 11-B 県庁本館前噴水廻りをぶどう棚緑化
- 12-A 防災新館南側にぶどうカーテン
- 13-B 防災新館南側テラスをぶどう棚緑化
- 14-G 芝生広場にぶどう緑化生垣
- 15-E スクランブル交差点の駐車場をぶどう棚緑化
- 16-C コリ店舗フロントにぶどう棚ゲート
- 17-E 建設業会館駐車場をぶどう棚緑化
- 18-B コリ南側駐輪場をぶどう棚緑化
- 19-F オリオン通りをぶどうアーケード
- 20-C 中銀本店駐車場入口にぶどう棚ゲート
- 21-B 甲府市役所東側デッキをぶどう棚緑化
- 22-E 甲府市役所南側駐車場をぶどう棚緑化
- 23-E 古名屋ホテル西側駐車場をぶどう棚緑化
- 24-F 春日通りをぶどうアーケード
- 25-E 中心街駐車場をぶどう棚緑化

タイピンデックス
A: ぶどうカーテン
B: ぶどう棚緑化休憩スペース
C: ぶどう棚ゲート
D: 鉢植えぶどう
E: ぶどう棚緑化駐車場
F: ぶどうアーケード
G: ぶどう緑化生垣



■ぶどう緑化による甲府市中心部活性化計画の実行組織

「まちなかぶどう畑 甲府」

●企画立案サポート

内容
具体的なプロジェクトの立案
デザイン・イニシャルコスト等の提示
各方面との調整
広報活動
NPO法人化の検討

メンバー

プロジェクトチーム
大学
研究機関
行政関係セクション

●メンテサポート

内容
メンテナンス人員の確保
メンテナンス方法の確立
育成方法・メンテナンス講習会の開催
メンテナンスイベントの開催
農援隊の結成

メンバー

農業団体
造園協会
果樹試験場
ぶどう農家
学生・市民
山梨県

●資金サポート

内容
資金調達の具体的検討
(クラウドファンド等)
補助・助成制度の整備

メンバー

山梨県
甲府市
ロータリークラブ
経済団体

建築まちづくり提案の部 優秀賞



I 地域分析 500年の歴史の積層

1519 安土桃山
1600
1700 江戸
1800
1900 明治
2000 大正・昭和
2019 平成

① 甲府城下町の形成
1500年代の甲府城の建設に伴い、甲府城下町が整備された。城下町は濠で囲われた内側を基盤の目状に大通りが抜け、街区内の内側は町家形式の住居で埋まるような都市構造であった。

② 中央商店街の盛衰
甲府空襲により街の大半を焼失した後、甲府城跡地に、甲府中央商店街が形成された。しかし、平成に入るとモータリゼーションの影響から郊外大型店舗に圧迫され、歩行者が減少する。

③ 交通網の発達
鉄道開通以降、甲府は県内交通の中心である。また、リニアの開通により交通結節点としての機能は強化される。一方で、従来の居住者もいるため、来街者との共存の形が求められる。

II 提案趣旨 3つの階層を往来する商店街

① 「表と裏」の階層
甲府城から続く南北通りは現在もメインストリートとしての機能を担う。一方、町家が続いていた東西方向は裏通りで繋がっている。これら表通りと裏通りの往来が甲府の商店街の魅力を形成している。

② 「昼と夜」の階層
商店街の中心は、百貨店をはじめとした物販から、徐々に居酒屋等の飲食店へと移行しつつある。結果として、現在は昼は生活感が強く、夜は歓楽街に近い雰囲気の流れが形成されている。

③ 「ハレとケ」の階層
新幹線に加え、リニアの開通により、甲府への来街者は今後増加することが予想される。一方で駅周辺には生活感のある住宅街もあり、日常と非日常の無意識的な同居状態が形成されている。

III 実現方法 空間（既存ストック）× 機能（多様なコンテキスト）× 仕組（活動のネットワーク）

空間 - 甲府特有の既存ストック -
一般的に空き家などの低未利用地はネガティブな存在とされるが、500年をかけて形成された空間には、いくつもの地域性が隠れている。それらを顕在化することで、現代の街並みに甲府らしさを継承する。

機能 - 甲府特有のコンテキスト -
江戸時代から山梨県の中心として盛えた当エリアでは、これまで芸術、歴史、食など様々な文化が生まれてきた。それらを甲府固有のコンテキスト（文脈）として、現代的に再解釈しながら継承する。

仕組 - 小さな活動のネットワーク -
甲府には、商人、オフィスワーカー、生活者、観光客などによる多様な活動が存在する。それらの小さな活動を緩やかにネットワークするような仕組を設けることで、街に関わる主体間のコミュニティづくりを促進する。

IV 都市デザイン 多様な魅力が連続 / 積層 / 複合する『甲府遊楽街』

マクロな視点
- 『甲府遊楽街』形成 -
商業エリアにおいては、中央商店街を中心に明快なエリアを設定し、『甲府遊楽街』として右記のような多様なエリアマネジメントを展開する。
住宅エリアでは、お濠の部分復元や、空き地の防災広場化など、街区単位で低未利用地を活用し、住環境を整える。

ミクロな視点
- 5つのストック活用法 -
アーケードや路地状建物といった、甲府特有の空間ストックを活用して、『甲府遊楽街』に多様なアクティビティを散りばめる。地元民も来街者も、まちを歩く中で自然と甲府の魅力と遭遇できる街を形成する。

③ お濠デッキ
商店街を歩者専用とすることで低利用となる車道に、甲府城の濠を復元する。エリアを貫く親水空間が、歴史を感じる街並み形成と酷暑の緩和に寄与する。

④ 路地ワイナリー
甲府特有の路地状通路を持つ建物を、ワイナリーとその見学施設として活用する。奥に伸びる町家形式を活かし、直線上にワインの製造過程を配す。

⑤ アーケードギャラリー
全面が覆われているアーケードにアーティストの作品を展示し、ギャラリーとして活用する。沿道には工房やカフェを設け、身近にアートを楽しむ空間とする。

『甲府遊楽街』平面図 S=1/2500

図面は、甲府遊楽街の平面図を示し、主要な建物、道路、公園、そして提案された施設（お濠デッキ、路地ワイナリー、アーケードギャラリー）の位置を詳細に示している。

A 桜町通りと連続する岡島百貨店

B お濠が抜ける桜町通り

C 畑で覆われる春日あべにゆう

D ワイナリーとなる路地状店舗

E アートで埋まる銀座通り

F シアターとなる空き地

An aerial photograph of Maifu, Japan, overlaid with a green-themed map highlighting various urban planning initiatives. The map features several icons and labels indicating project locations and types:

- GreenBelt 風の通り道**: Green belts designed as wind corridors.
- 空地カーテン**: Skyline curtains or open spaces.
- 公園整備**: Park improvement projects.
- 甲府シネマ**: A cinema complex in Maifu.
- 陸橋緑化**: Land bridge greening.
- レンタサイクル周遊**: Bicycle rental circulation routes.
- GreenFarm**: Urban farming areas.
- 庁舎開放**: Opening up government buildings.
- 舞鶴RUN**: Running routes near Maifu Bay.

The bottom right corner contains the slogan: ~甲府の温度を2℃下げる~ (Lowering Maifu's temperature by 2°C).

建築まちづくり提案の部 優秀賞

01 甲府城の現状

甲府城は武田から織田・豊臣・徳川時代に移り築造され、明治において時代の象徴である鉄道が城の一部を壊しながら開通し、以降甲府の町の中心近くに置かれながら、甲府の発展と関係なく残され、近年において史跡としての価値を現代に生かそうと部分的に再現整備されましたが、城壁周囲を巡りその魅力を知らせたり、発見したりという視点に欠けていると思います。甲府城石垣の東西と北側3方は石垣に近づけます。南は石垣とお堀を東西から魅力的に見渡せるポイントがあります。城の石垣の風景をもっと美しく見せる工夫とめぐる動機付けを付加する事で、歴史的な遺産をもっと活かす事が出来ると思います。

02 甲府城リングで街歩きを取り戻そう

中心市街地が空洞化して郊外のイオンモール・ラザウォークが賑わっていますが、いずれアマゾンやSNSの通販に取って代わられるかも知れません。今後情報通信機器はさらに進化し、居ながらにして情報交換・高速移動が可能で出掛けなくても「会える買える体験できる」これは静的で、モノと情報を主体にした生活が街の活気を奪っていくかも知れません。そこで街に「賑わい・活気」を取り戻すには動的で、コトを主体にした生活要素を街中に組み入れ、「実際に歩く、触れる、眺める、お願い・買い物・会話する」そして考える場所」として『甲府城石垣周囲の遊歩道化』を提案します。名付けて「**甲府城リング**」。

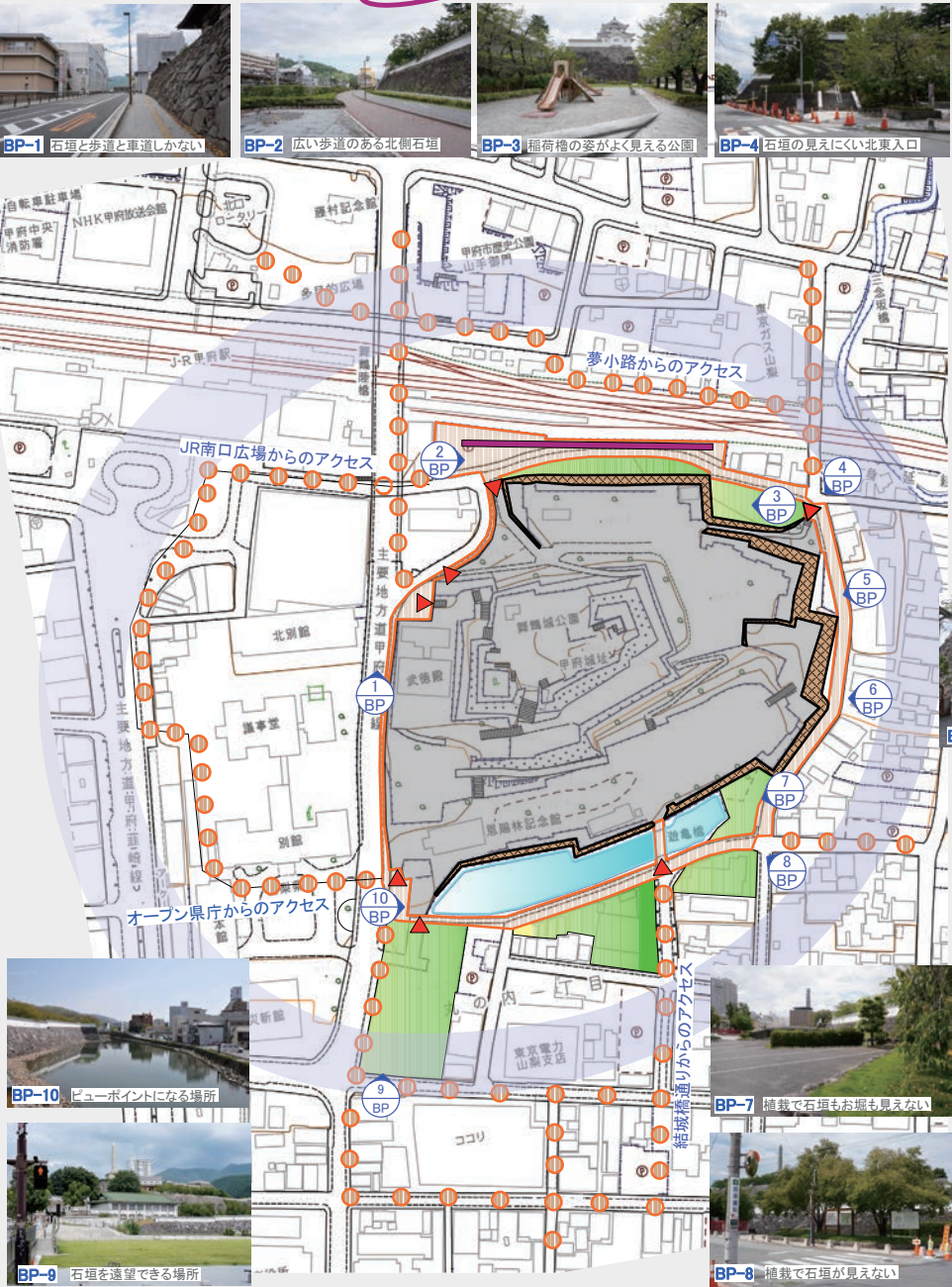
甲府城石垣周囲を遊歩道化して、**街歩きを取り戻そう**！私達は、考え、創造し、夢をみる、自由でユニークな存在です甲府城石垣周囲をもっと安全に、楽しく、興味を持って歩けるよう変えて行きましょう。これを甲府城リングとし周囲の県庁、甲府駅、甲州夢小路、ココリ・岡島等と繋がって街中歩きを延ばして魅力ある街に変えて行きましょう。

03 甲府城石垣を街のシンボルに

- 町並みに対する石垣の持つ存在感とスケール感は
- 「町の歴史を考える」
 - 「町並みに特徴や個性を与える」
 - 「石垣から受ける神秘的な魅力」
- などの力（チカラ）を与えてくれるシンボルです。より**美しく・魅力的に見えるよう**に街並みを整えよう。



城と街の新たな物語を作ろう 甲府城リング シェアしよう石垣空間を



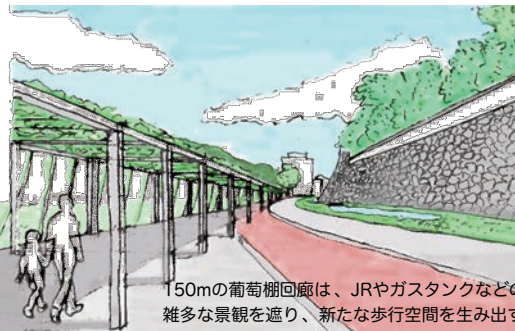
04 城壁を巡りたくなる動機付け

- 1 七福神めぐりスポットを設ける
7つある出入口の近くに七福神を配置し、巡ることで御利益があるという物語を作る
- 2 インスタ映えスポットを作る
●長い葡萄棚アーケードを設ける
●水が湧きお堀まで伸びる水路を設ける
●石垣を魅力的に見せる店舗を作る
●石垣とお堀が魅力的に見える場所を設ける
- 3 市民がチャレンジできるスペースを設ける
●朝市が開催でき売り買い出来る場所作り
●空家リノベし店優遇エリアを設ける
●踊りや歌・演奏などできるスペース作り
- 4 歩き巡りでポイントが貯まる仕組みを設ける
●歩く事で保険料が安くなる
●ポイントで飲食等サービスが得られる
●宿泊利用者に割引サービスがある
- 5 周囲道路の歩行者天国にする
●安全に、楽しく歩くには歩行者専用
●土日だけでも歩行者天国に
●まずは試してみよう。半日から

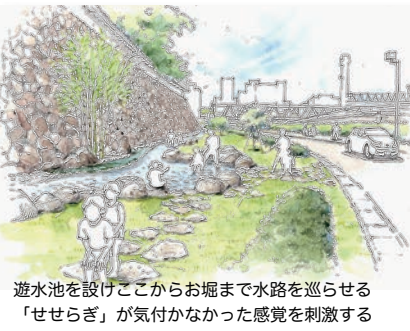


05 日常生活に活力を与える場所

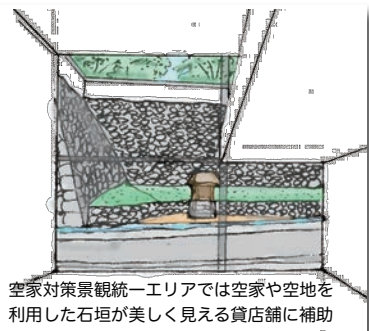
- 1 買い物・食事をできる楽しい場所がある
●朝市などで食材を売る
●食堂・カフェ・飲み屋などがある
- 2 願いや祈りの場所がある
●恋愛・学業成就
●商売繁盛、技芸上達
●病氣平癒、健康長寿
●子宝・子孫繁栄
- 3 出合いや挨拶のできる場所がある
●毎日ラジオ体操をやっている
●散歩のコースがある
●飲食店、図書館、大人の学校
- 4 本当に美しい場所がある
●朝日や夕日の美しいポイント
●夜景やライトアップで美しいポイント



150mの葡萄棚回廊は、JRやガスタンクなどの雑多な景観を遮り、新たな歩行空間を生み出す



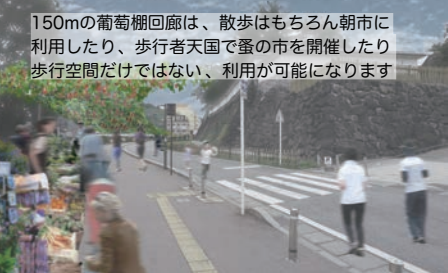
遊水池を設けここからお堀まで水路を巡らせる「せせらぎ」が気付かなかった感覚を刺激する



空家対策景観統一エリアでは空家や空地を利用した石垣が美しく見える貸店舗に補助



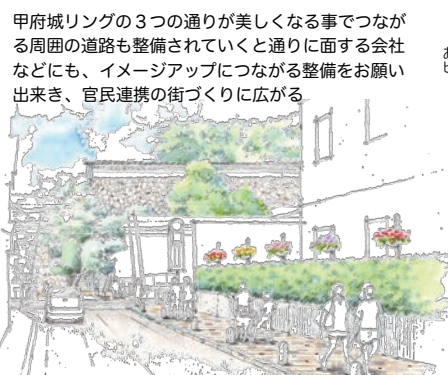
周囲の植栽を整理し、芝貼りした公園の一部にア社を建立して商売繁盛や恋愛成就を祈れる場所とする
インスタ映えするビューポイントが新たに生まれる



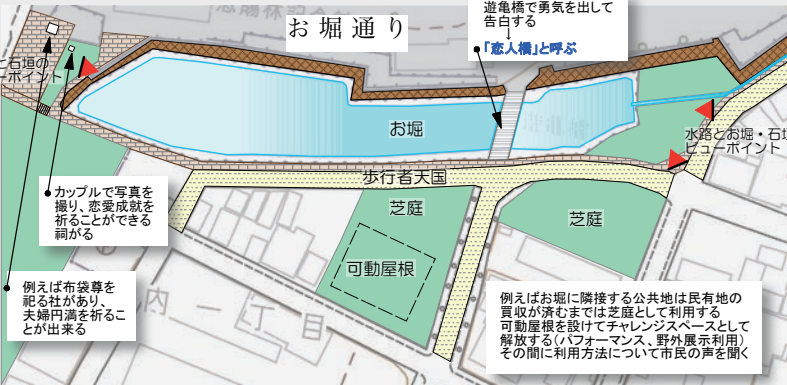
150mの葡萄棚回廊は、散歩はもちろん朝市に利用したり、歩行者天国で蚤の市を開催したり歩行空間だけではなく、利用が可能になります



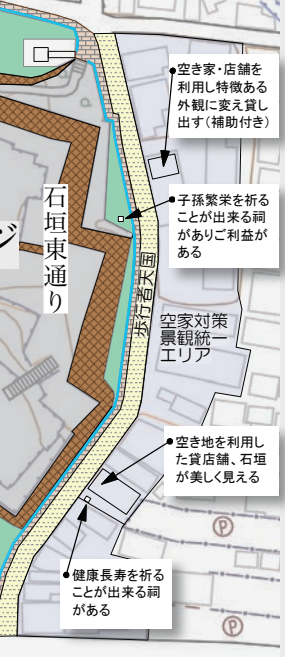
甲府城リングを構成する3つの通りのイメージ



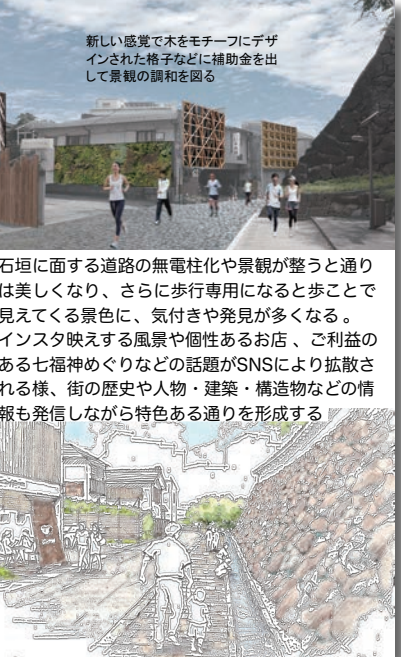
甲府城リングの3つの通りが美しくなる事でつながる周囲の道路も整備されていくと通りに面する会社などにも、イメージアップにつながる整備をお願い出来る。官民連携の街づくりに広がる



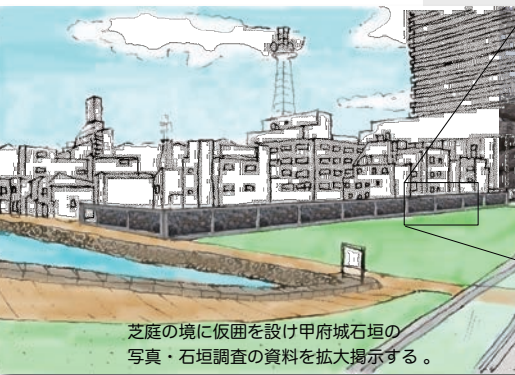
例えばお堀に隣接する公共地は民有地の買収が済むまでは芝庭として利用する可動屋根を設けてチャレンジスペースとして解放する(パフォーマンス、野外展示利用)その間に利用方法について市民の声を聞く



空家・店舗を利用し特徴ある外観に変え貸し出す(補助付き)
●子孫繁栄を祈ることが出来る祠がありご利益がある
●健康長寿を祈ることが出来る祠がある



新しい感覚で木をモチーフにデザインされた格子などに補助金を出して景観の調和を図る
石垣に面する道路の無電柱化や景観が整うと通りは美しくなり、さらに歩行者専用になると歩くとでえてくる景色に、気付きや発見が多くなる。インスタ映えする風景や個性あるお店、ご利益のある七福神めぐりなどの話題がSNSにより拡散される様、街の歴史や人物・建築・構造物などの情報も発信しながら特色ある通りを形成する



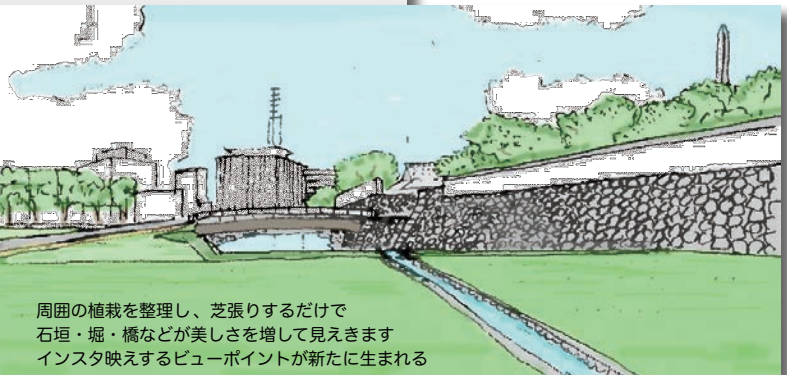
芝庭の境に仮囲を設け甲府城石垣の写真・石垣調査の資料を拡大掲示する。



公共用地の計画も掲示し市民参加の街づくりをアピール仮囲いだけだと歩きたくなる



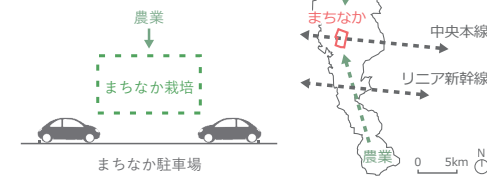
芝張りを人工芝などになると利用の幅が広がり頻度も上がる：皆んなでシェアしよう



周囲の植栽を整理し、芝張るだけで石垣・堀・橋などが美しさを増して見えますインスタ映えするビューポイントが新たに生まれる

まちなか栽培

甲府市中心部を農業で変える。城下町以来の「まちなか商業」が衰退して増えた「まちなか駐車場」。その上部で果実・野菜を作る「まちなか栽培」を計画。近隣の居住者・事業者が運営に携わり、商業偏重から生産を伴う本来の「まちなか生活」を育む。



A. 公共施設の駐車場上部で栽培



B. 商店街裏の駐車場上部で栽培

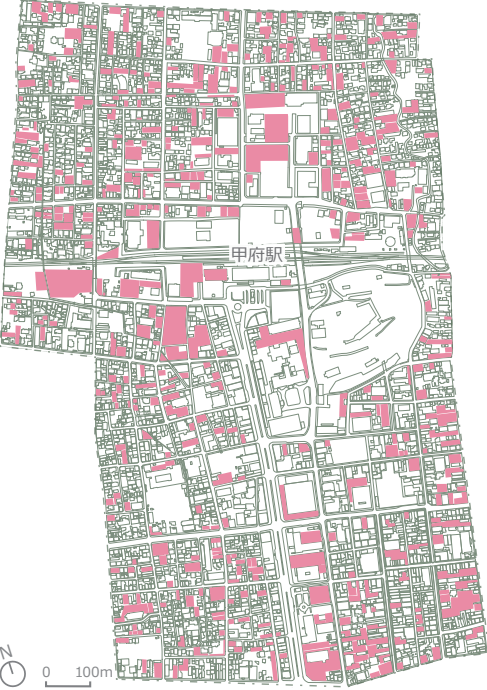


C. 青空駐車場上部で栽培

1. 構想：まちなかを農業によって商業偏重から生産をともなう生活空間へ変える

①まちなか商業 ～2000年

甲府市中心部は舞鶴城を中央線が東西に横切り、それに直交するように、甲府駅から北は武田神社へ、南は官庁街から飲食店街を貫く複数の通り沿いに形成された。この南北軸は中心部だけでなく、北と南に農村部・山間部を抱える甲府市域全体の広域構造でもある。



商業が活発な様子（現在の駐車場に商業があったと仮定）

②まちなか駐車場 2000～2020年

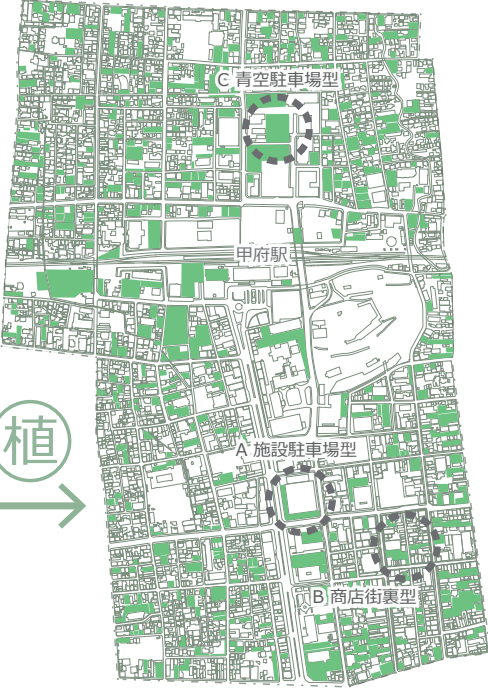
郊外化やインターネット通販の進展により、多くの地方中心市街地と同様、甲府市中心部でも「まちなか商業」が衰退した。甲府駅へ向かう南北通りよりも、それに直交する東西方向の通りや路地、街区の内側から空洞化が始まり、車社会に応じる「まちなか駐車場」へ転用が進んだ。



現在の駐車場分布

③まちなか栽培 2020年～

「まちなか駐車場」は東西方向の通り沿いや東西に長い画地に設けられるため、南面する辺が長く、日照を受けやすい。駐車場の営業を続けたまま、車路の上部、地上2.7～4.8mの高さに棚を架け、中心市街地で野菜・果実を生産する「まちなか栽培」を行う。



現在の駐車場に農業を植えつける

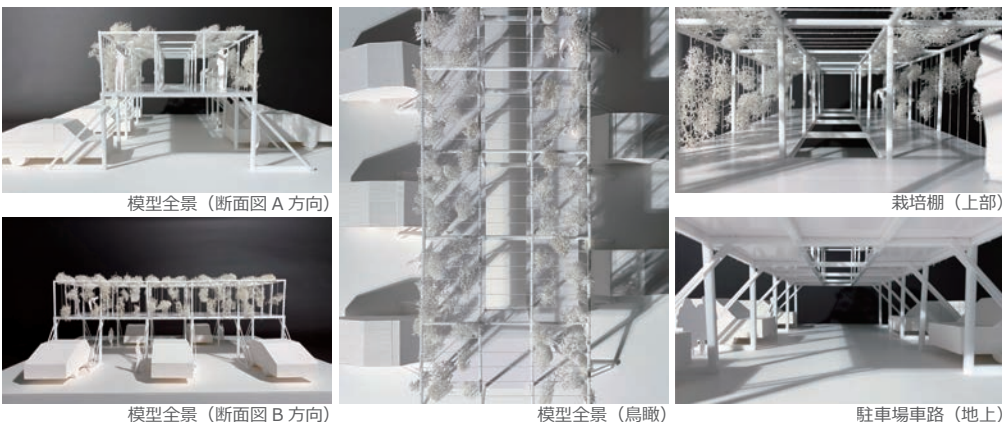
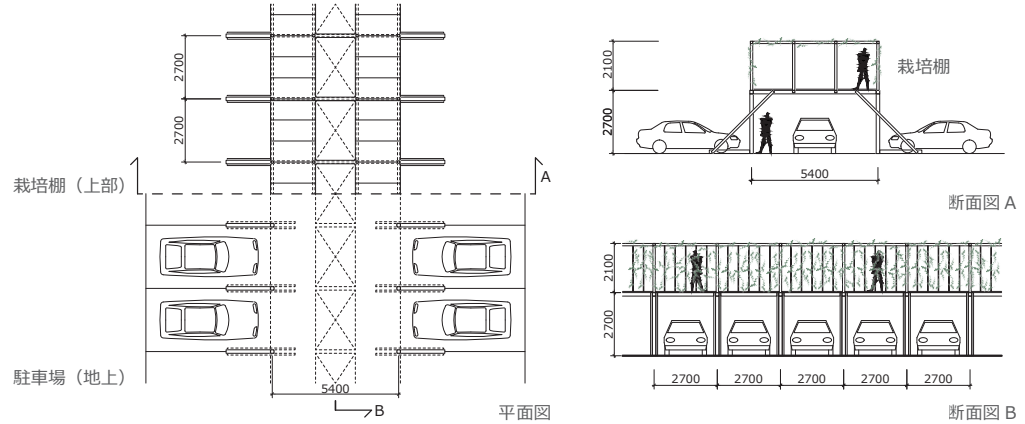
④まちなか生活 2020年～

中心市街地の事業者・居住者が農業者の支援を受けながら「まちなか栽培」を運営する。地産地消で新鮮かつ環境に優しい収穫物は、飲食業や家庭で食すとともに、市民農園や農業体験など教育・レクリエーションにも広げ、生産が身近にある、本来の「まちなか生活」を取り戻す。

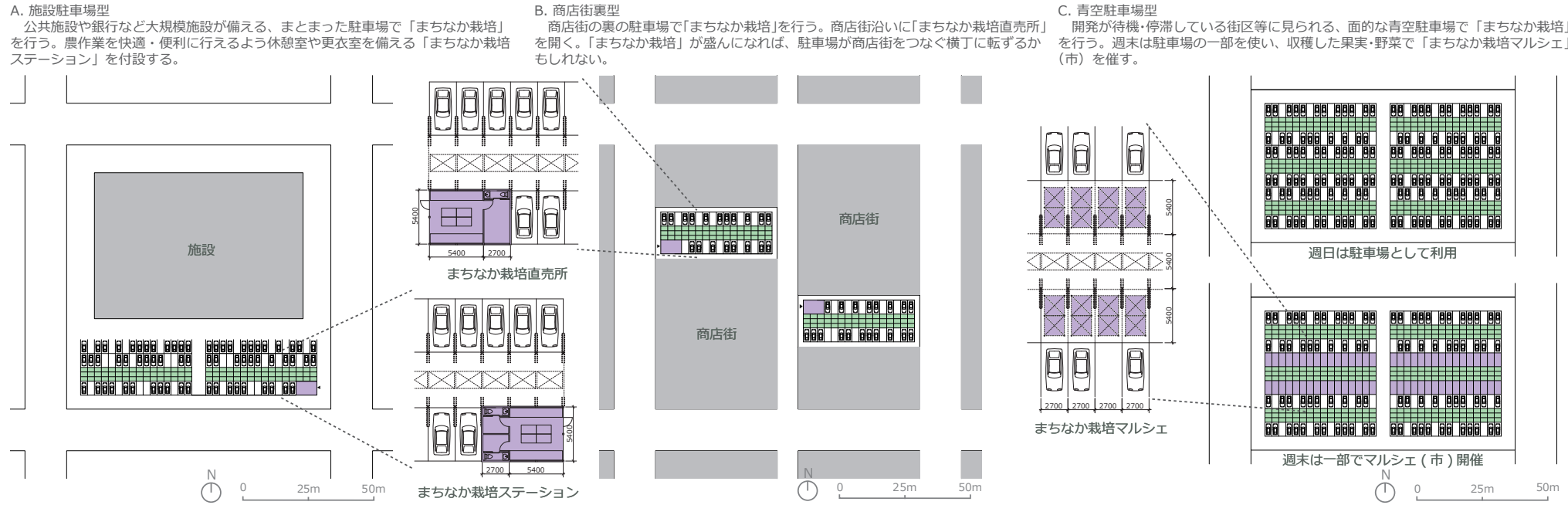


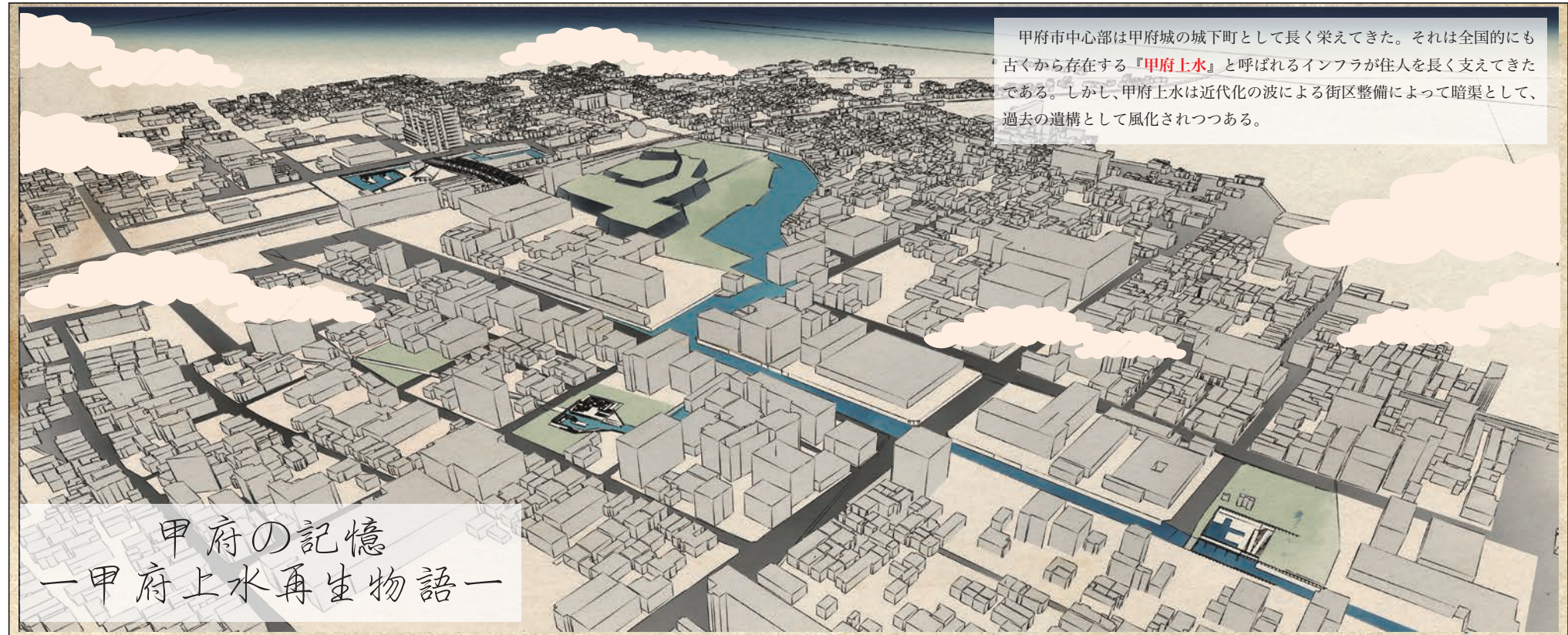
農業が新たな居住や商業を育む

2. 建築：日照を受けやすく、駐車場の営業を続けるよう、立体的な棚を駐車場の上部に設ける。車路の直上は鉄骨造とし、その上に組む栽培棚は木造とする



3. 実装：駐車場の形態に応じて「まちなか栽培」とそれに係る活動を展開する





序章・甲府の抱える問題

甲府市は他の地方都市と同様の問題、人口減少や空き家の増加など数々の問題を抱えている。また、郊外大型商業施設の誕生による都市の空洞化や商店街のシャッター街化などが直接的に人々の住みやすさに影響を与えている。

また、城下町としての風景は舞鶴城と堀の一部が残っているのみで、戦後から高度経済成長の発展によって古き良き美しい城下町としての風景はほとんど残っていない。

私たちは上の二つの問題に注目し消えてしまった風景を取り戻すと共に住人の住みやすさを向上させる提案をする。



住みにくくなってしまった
甲府の街

消えてしまった
城下町としての風景

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓

甲府のアイデンティティの再生

第一章・甲府を支えてきた甲府上水の再生

江戸時代、甲府の城下町は『甲府上水』によって住人たちの生活は支えられてきた。甲府上水とは、飲用・生活用・防火用に使用した上水道のことで、1592～1600年に整備されたと言われる、全国的に見ても非常に古く歴史がある。

しかしながら、近代化が進むにつれ、内堀の一部を残し、ほとんどの堀と上水は暗渠として、風化しつつある。私たちは甲府のかつての城下町としての風景を取り戻し、住人たちの生活を向上させるために上水を再生する。



江戸時代、上水は城下町全体

現在も残る上水

第二章・生活を支える新たな上水ネットワーク

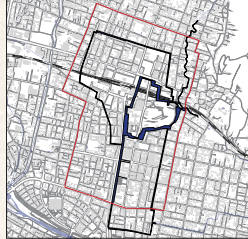
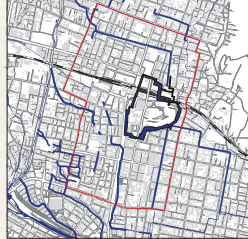
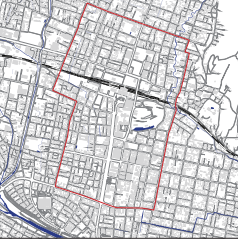
本提案では江戸時代や大正時代の地図と現在の地図を基に、現在暗渠とされてしまった、及び埋められてしまった上水と堀を洗い出した。

これら上水を現存しているものと結びつけ、甲府市街中心部に広がる『上水ネットワーク』とする。

このネットワークは街に甲府の豊かな水をもたらすと同時に、消えてしまった城下町の風景を取り戻す。

また、このネットワークは住人や観光客を輸送する交通機関として、そして生活物資を運ぶ輸送機関として機能する。上水に接する公園や駐車場を整備することで、これらは親水空間になるだけでなく、生活物資を得ることのできる市場の機能を持つ。

ダイアグラム



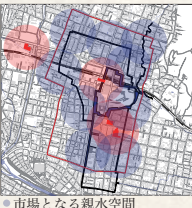
現在、残った堀と上水はわずかである

江戸時代・大正時代の地図を基にプロット

上水と堀を開渠、及び再整備する

上水ネットワークの活用

それぞれの親水公園に市場の機能を持たせることによって、住人、特に高齢者が気軽に買い物ができるようにすることで、より住みやすい甲府の街を目指す。

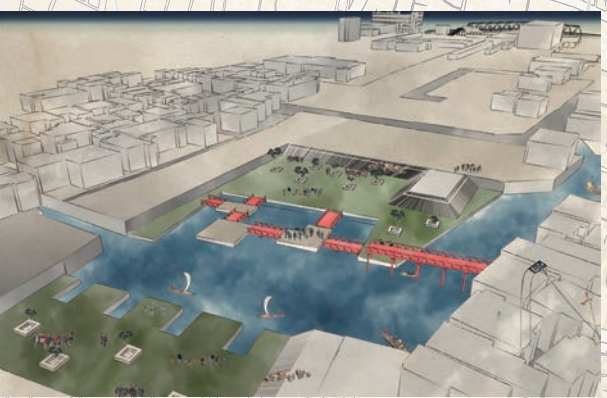


市場となる親水空間

スーパーマーケット

輸送機能を持つ堀は魚屋や八百屋などとして市民に開かれる

①宝町一丁目周辺



大規模な駐車場を大きな親水公園となり、甲府のウォーターフロントとなる。ここでは水上でのイベントやフェスなどの大規模なイベントを行うことができる。

②甲府市歴史公園・北口ロータリー周辺



甲府駅北口には内堀を再生し、甲府市歴史公園と北口ロータリーは観光客の玄関口とする。広場はイベントスペースとなり、祭りやイベントの拠点となる。また、観光案内所を設置し、観光客に対し積極的に甲府の魅力をPRする。

③丸の内公園



それぞれの親水広場は、市場としての機能を持つことで、車を使うことなく自宅の近所で買い物をすることができる。また、丸の内公園は小学校の近くにあるため、たちばな児童公園とともにビオトープとして利用される。

④中央公園



平和通り沿いの中央公園は緑と水に富んだ自然豊かな空間となる。周辺で働く人々や駅へ向かう人々の休憩空間として、街の人々が集まるコミュニティの拠点として利用される。

建築まちづくり提案の部 佳作

県産木材でつなぐ甲府500年の歴史と未来

— CLT が作り出す木に包まれたまちづくりの提案 —

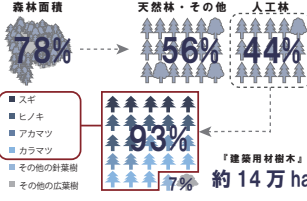
日本建築学会関東支部第21回提案競技
「美しいまちをつくる、むらをつくる」

I はじめに

甲斐の府中として、武田信虎が鷹躍が崎に館を築いてから500年、甲府には様々な歴史が眠り、私たちはその歴史の上に暮らしている。甲府に今もなお眠る歴史の地盤を傷つけることなく、軽やかに甲府を活性化させる仕組みとして、CLT工法による木材利活用を計画した。現在の甲府市が抱える都市の空洞化やシャッター街といった問題に対し、CLTによる柔らかな町並みが500年の歴史に新たな価値を生み出す。

II 計画背景

山梨県には、建土面積の78%を占める豊富な森林資源がある。そのうち、建築用材としてのスギ、ヒノキ、アカマツ、カラマツ等の樹木の生長は年々右肩上がり、現在、木材として本格的な利用時期を迎えている。この豊富な地域素材を有効的に利活用し、木に包まれた、甲府における新たな町並みを計画する。



III CLTの活用とその利点

森林資源活用方法として、CLTという工法に着目した。以下のような利点を生かし、甲府の街づくりにCLTを活用する。

- 1. 木材の有効活用**
CLT工法を用いることで、節のついているものや細身の木など、木材を無駄なく活用することができる。
- 2. 簡易な施工性**
パネル化による現場での乾式施工のため、工期短縮と人手不足の解消を図ることができる。木造専門職人へ依存せず施工が可能。
- 3. 甲府の歴史を守る軽い材料**
CLTは鉄やコンクリートと比べ部材重量が軽いため、建物基礎の簡素化が可能であり、500年の歴史が築いた地形を守る。
- 4. 高い断熱性**
盆地である甲府は、夏には40°を超える程の猛暑を記録し、冬は山から吹き下ろされる北風が冷たい。
- 5. 甲府の新たな魅力として発信する**
リニアの開通により、都心との時間的距離が大幅に縮る。甲府をCLTの研究開発都市として位置づけ、その魅力を県外へと発信する。

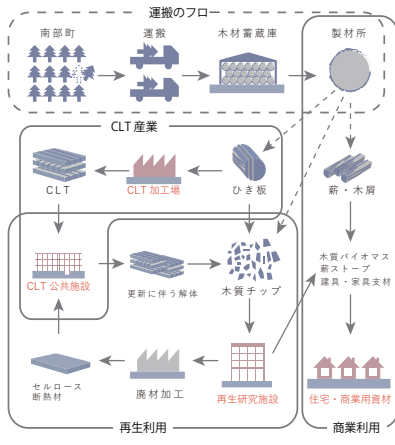
IV 交通インフラの活用とマスタープラン

整備された交通インフラを最大限に利用し、甲府を中心とした、CLT産業による街の活性化を提案する。



V CLT産業による甲府市活性化のフロー

地域素材を無駄なく活用するとともに、甲府における新たな地域産業として、CLT産業を提案する。IVにおける木材運搬のフローを計画し、甲府市を活性化させるフローを提案する。

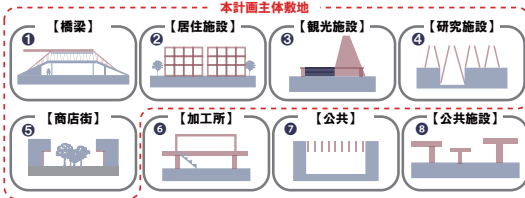


VI 建築の形態と配置

面材として活用することで、強度や断熱性、施工性を得られるCLTパネルの特徴を生かし、面性利用した様々な建築形態、配置を計画した。今回は、赤点線で囲われた本計画主体敷地（①、②、③、④、⑤の5つ）を中心に、建築の提案を行う。

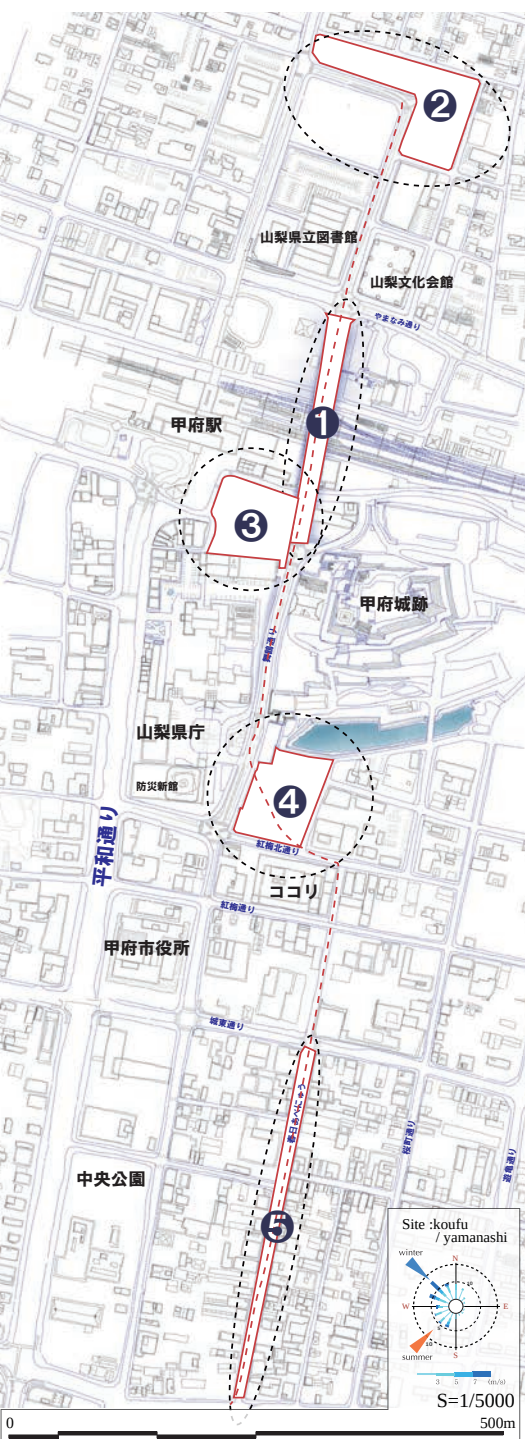
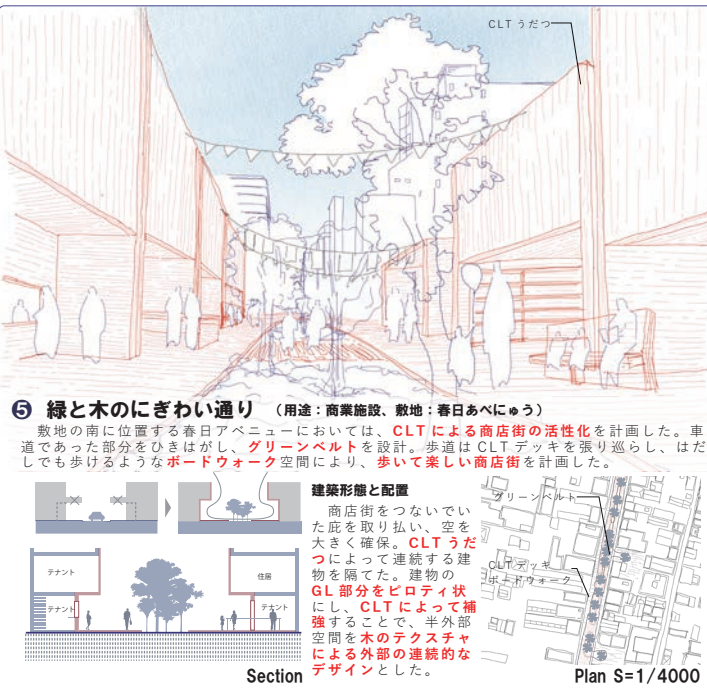
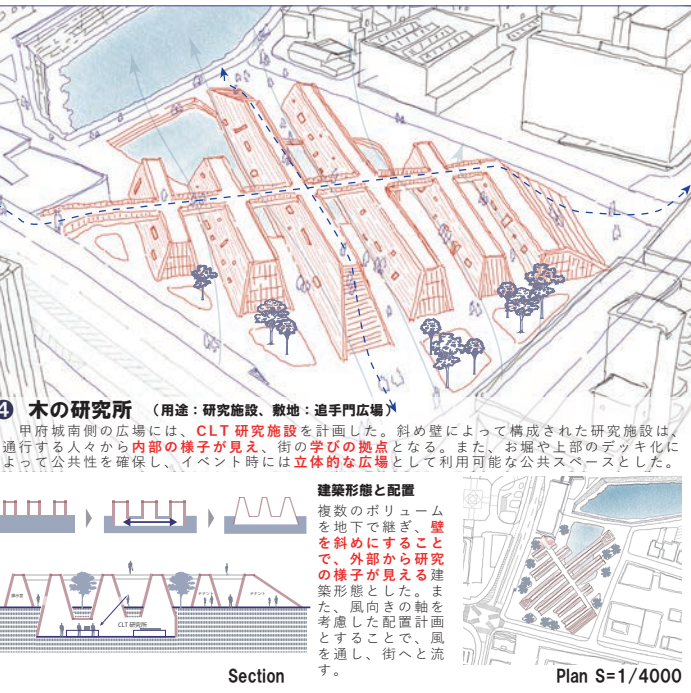
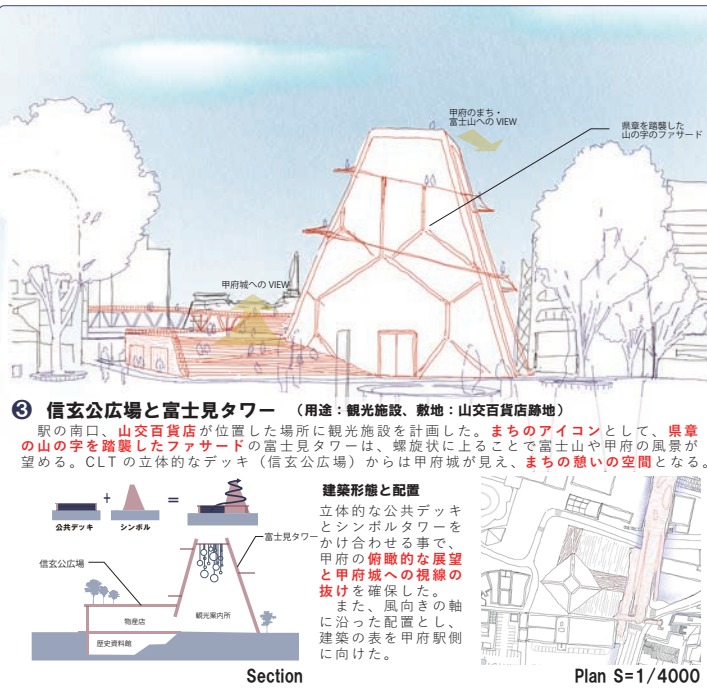
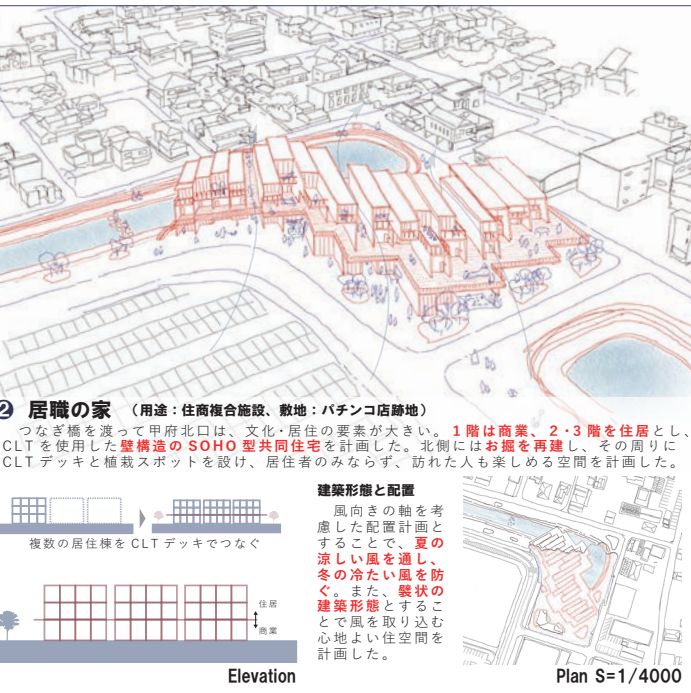
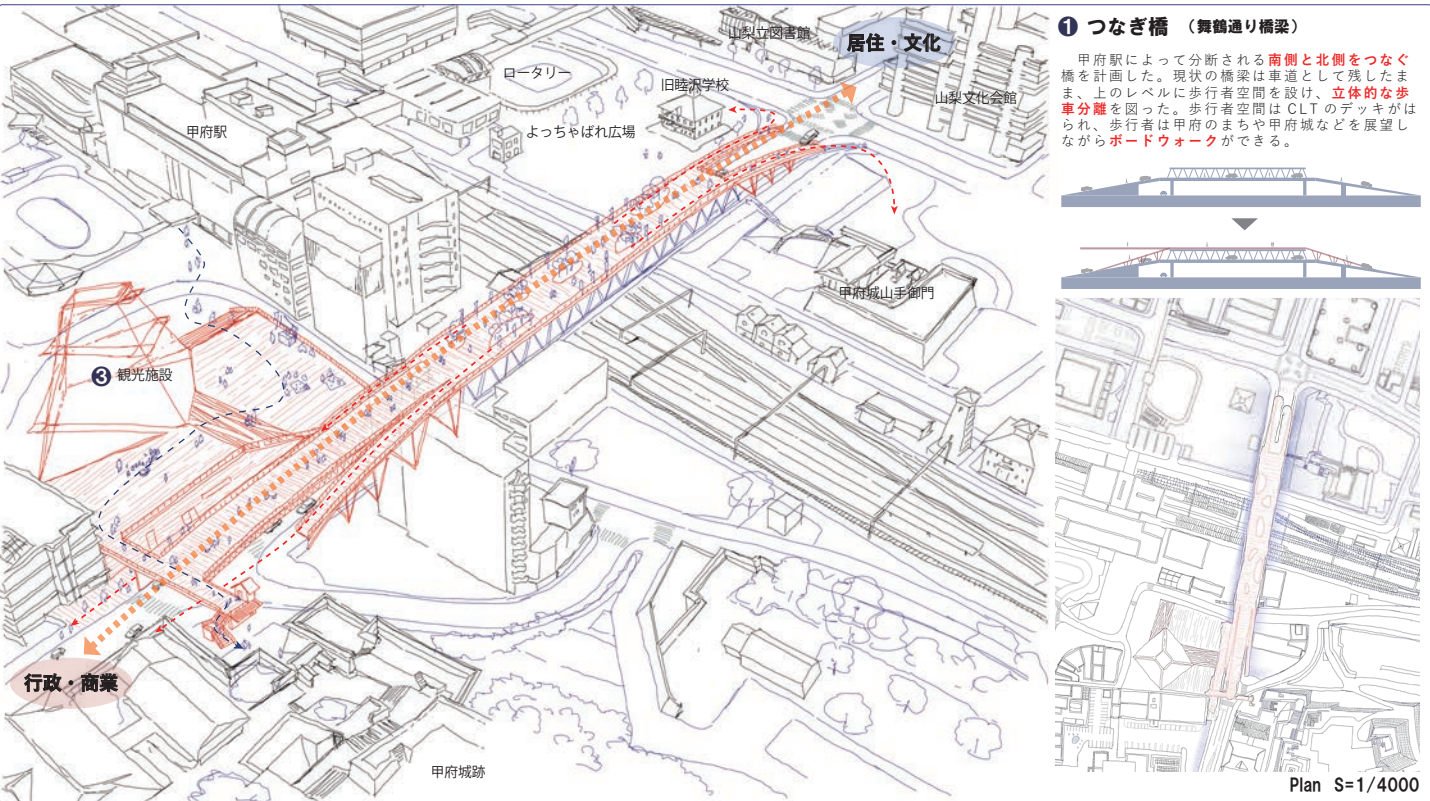
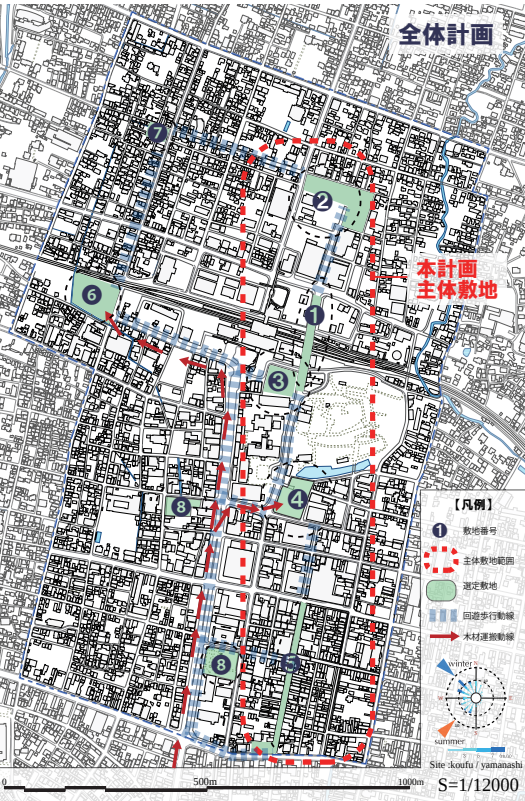
① CLTを生かした建築形態

CLTの面性を生かし、公共的な空間にはデッキ上のボードウォークを計画。居住施設や研究施設は断熱性能や耐震性能を期待したCLT壁を採用した。商店街の復興としては、半外部空間を引き込み、CLTで補強する事で、歩いて楽しい空間を演出した。



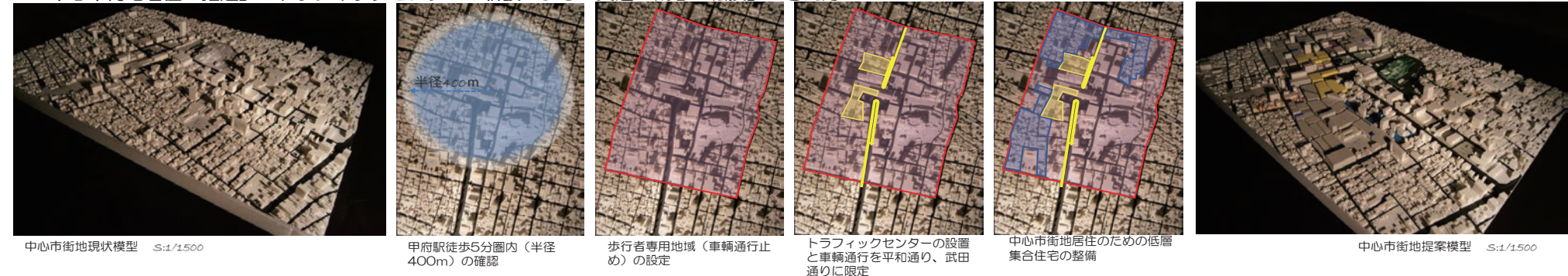
② 風を纏う配置計画

盆地である甲府は、夏には40°を超える程の猛暑を記録し、冬は山から吹き下ろされる北風が冷たい。①、②、③の建築においては、夏の南西風と冬の北西風に対して建築の軸を設け、夏は涼しく、冬暖かい建築配置を風の動きと共に計画した。



建築まちづくり提案の部 佳作

■「中心市街地居住の推進」「トラフィックセンターの新設による“交通”概念の転換」の考え方



■提案趣旨概要

甲府市中心部の活性化に際し、以下5点を優先すべき課題とし、その解決策として「中心市街地居住の推進」、「トラフィックセンターの新設による“交通”概念の転換」、「既存都市資産・観光資源の連続化、市街地居住との連携」を提案します。

【課題】

- 1. スプロール化、中心市街地の空洞化
- 2. 高齢者の自動車事故の増加
- 3. インフラ老朽化、維持管理費の増加
- 4. リニア新駅と甲府駅の隔たりによる投資の分散
- 5. 良質な観光資源の非連続性

【解決策】

- 1. 中心市街地居住の推進
 - (1) 1階部分に店舗・事務所の設置を義務付けた低層集合住宅の整備
 - (2) 甲府駅徒歩5分圏内の歩行者専用化（車輛通行止め）
 - (3) 平和通り、武田通りに限定した車輛通行
- 2. トラフィックセンターの新設による“交通”概念の転換
 - (1) 甲府駅に近接したトラフィックセンターの設置
 - (2) 甲府駅と各地をつなぐバスセンター機能の充実
 - (3) 中心市街地居住者、郊外居住者、観光客のための駐車場の確保
 - (4) 合理的移動手段の拡大（カーシェアリング等）
- 3. 既存都市資産・観光資源の連続化、市街地居住との連携
 - (1) 良質な観光資源の連続化（回遊性）
 - (2) 明確なゾーニングによる特徴、魅力の顕在化
 - (3) 各ゾーンへの優遇措置の付与による特徴づけの促進

【効果】

- 1. 明るく賑わいのある新たな街路の創出
- 2. 合理的移動手段の選択が可能
- 3. 明確なゾーニングと再活性化による便利で快適な中心市街地創出
- 4. 観光資源の連続化による観光交流人口の増加
- 5. インフラの維持管理費低減

■「既存都市資産・観光資源の連続化、市街地居住との連携」の考え方

美しいむらゾーン

1階部分に店舗、事務所を構えた低層集合住宅地域を形成し、明るく賑わいのある街路を創出していく。職住近接にも寄与したい。

トラフィックセンター

中心市街地居住をすすめるためには、“交通”概念の転換が必要である。ここを起点として、リニア新駅と甲府郊外各所をつないでいく。中心市街地居住者、郊外居住者、観光客の駐車スペースを確保する。各所をつなぐバス、自家用車、カーシェアリングなど各人の事情に応じた合理的な交通手段の選択が可能となる。

医療・福祉ゾーン

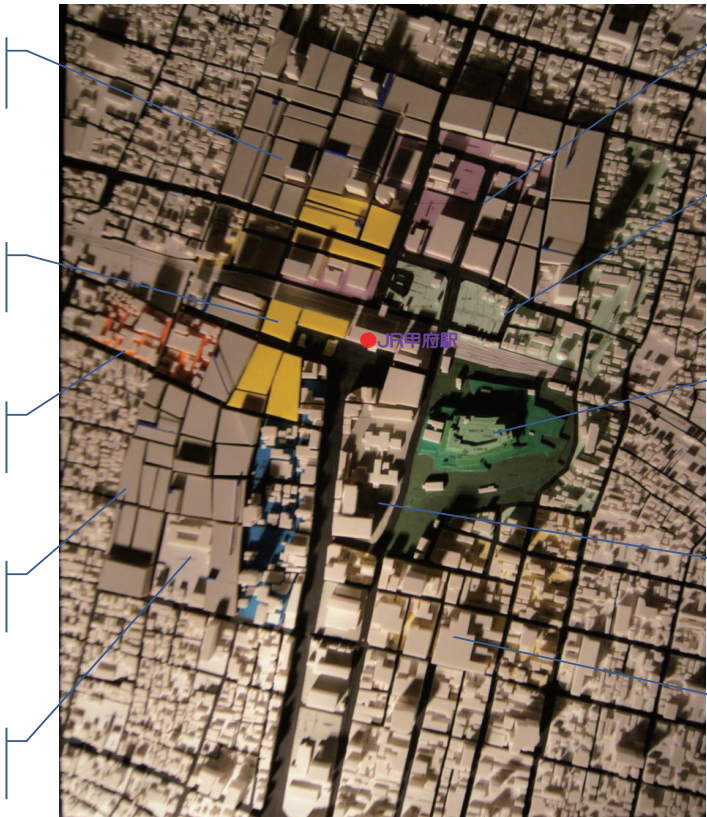
既存の甲府共立病院を中核として、医療・福祉施設を誘致する再開発を進めていく。

美しいまちゾーン

1階部分に店舗、事務所を構えた低層・中層集合住宅地域を形成し、明るく賑わいのある街路を創出していく。既存の商業ゾーン、ビジネスゾーンと連続し、相乗効果をもたらす。

ビジネスゾーン

大企業の本支店が集約している甲府市の中核的ビジネスゾーンである。更なる発展を目指す地域と位置付ける。



情報・文化ゾーン

NHK山梨放送局、県立図書館、山梨文化会館といった既存施設を活かし、情報発信、文化交流の場とする。

観光促進ゾーン

よっちゃばれ広場、甲州夢小路、サトヤシャトーといった既存観光資源を活かしつつ、更なる商業観光施設の誘致を行い、集客力アップを図っていく。

舞鶴城公園ゾーン

舞鶴城公園は極めて良好な環境である。市民の憩いの場として良好な環境を維持する。駅近でありながら、広大な面積を有しているメリットを活かし、各種イベントにも活用する。北側の観光促進ゾーンから、舞鶴城を経由し、商業ゾーンへとつなぐ観光の連続性を持たせたい。

行政ゾーン

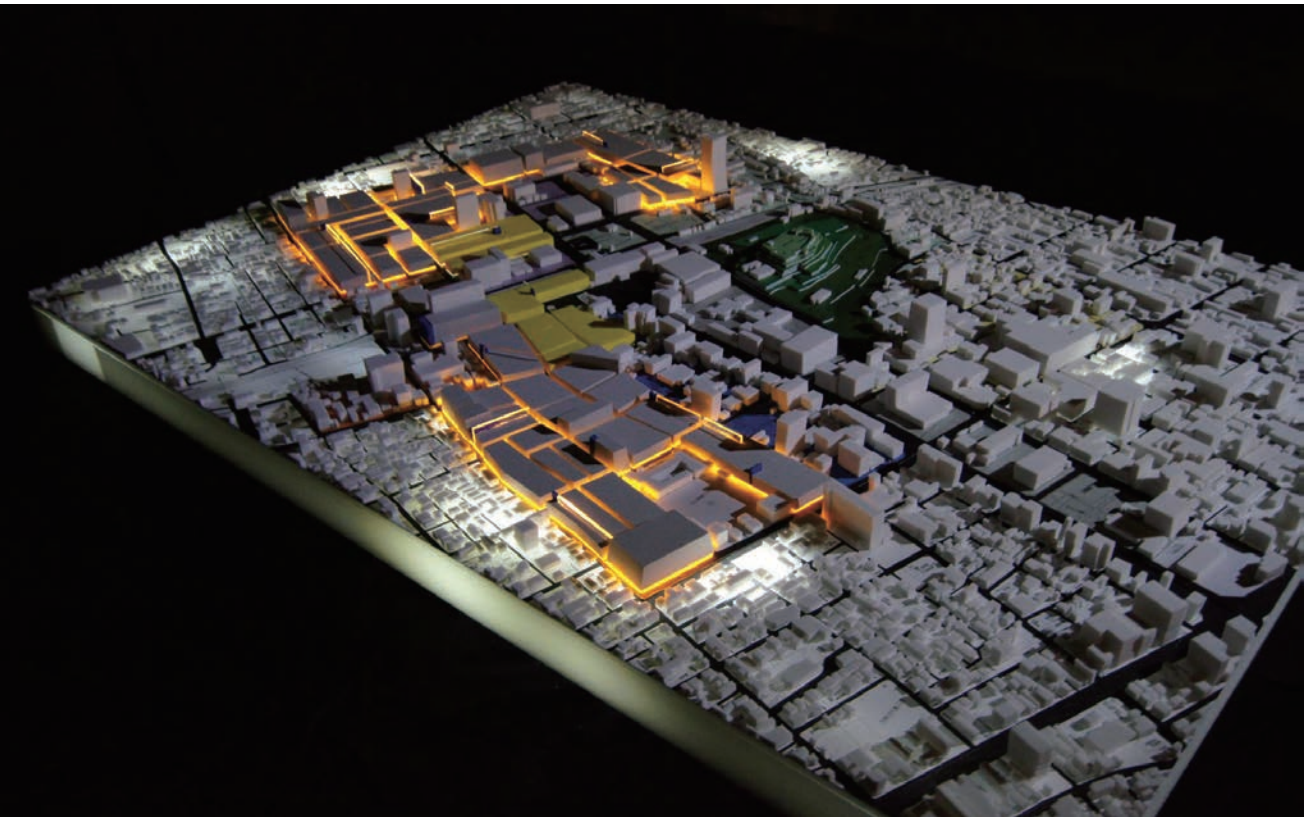
山梨県庁、甲府市庁舎をはじめ、行政施設が集約している地域である。利便性に優れており、安定的維持に努める。

商業ゾーン

岡島百貨店、イオンといった大型商業施設と中小店舗が混在する商業地域。中小店舗に対して積極的支援や優遇措置を付与し、市民の日常の買い物にとどまらず、観光客にも魅力ある商店街を目指し、賑わいを取り戻していきたい。

提案図面2枚中の1

日本建築学会関東支部第21回提案競技 課題：甲府市中心部の活性化の提案
提案名：「中心市街地居住」×「トラフィックセンター新設」×「観光資源の連続化」



垂直街路と屋上開放

中心市街地居住の集合住宅では、屋上の市民開放を提案します。舞鶴城公園や美しい山並みを眺める憩いのスペースや市民の屋上菜園などに活用します。

歩車分離

平和通りと武田通りのみに車輛通行を限定しているため、中心市街地を安全に歩行できます。また、歩車分離では、都市施設の整備に巨額のコストを要しますが、侵入防止ボールの設置で対応するため、安価な整備です。緊急時の車輛進入に容易に対応することができます。



光の路地

建物を貫通する街路を設けます。トップライトから光が差し込む街路は、子供たちの抜け道となったり、市民のたまりとなったり、新たなコミュニティを誘発します。

2～5階部分

低層の集合住宅です。中心市街地居住は高密度な住空間を要しますが、美しい山並みに囲まれた甲府市の景観に配慮し、高さを20m以下に抑えることを提案します。

1階部分

店舗、事務所の設置を義務付けます。新しい街路の形成とともに、職住近接のための空間を確保します。

Housing Concept

提案図面2枚中の2

夕刻、店舗や事務所の明かりが街路を灯し、中心市街地の生活ならではの“賑わい”と“安心感”を生み出します。

日本建築学会関東支部第21回提案競技 課題：甲府市中心部の活性化の提案
提案名：「中心市街地居住」×「トラフィックセンター新設」×「観光資源の連続化」

写真コンクールの部主旨

500 年前に信虎が開き、信玄が発展させた城下町が甲府の礎です。脈々と受け継がれてきた伝統・文化・建築などに加え、新たに生まれたものも数多くあります。この『まち』には、長い歴史を経た独自の魅力が埋もれています。大好きな甲府を、魅力あふれる甲府を、あなたならではの視点で掘り起こしてみてください。次代の『まち』づくりに活かすために…。

写真コンクールの部課題

テーマ：「好きずら!? 甲府」写真コンクール
～次代へつなげる『まち』の魅力～

写真コンクールの部対象地

甲府市中心街エリアの範囲内にある建物・まち並み・風景とします。

審査委員

特別審査委員：樋口 雄一（甲府市長）

審査委員長：田中 勝（山梨大学大学院教授）

審査委員：望月 伸（甲府市まちづくり部長）

青柳 茂（写真家・日本広告写真家協会）

雨宮 健一（山梨県建築士会長・竜巳一級建築設計事務所代表取締役）

藤田 義治（山梨県建築士事務所協会長・山形一級建築士事務所代表取締役社長）

写真コンクールの部【一般部門（高校生以上）】

賞	作品名	入賞者
最優秀賞	エ・キ・マ・エ ～真夜中の宝石	刃刀 すみ子 さん
特別賞	遠い記憶	長沢 初 さん
優秀賞	夜の街、甲府	倉茂 花苗 さん
	a n o t h e r s t r e e t	小牧 千佳子 さん
	時代の昇龍	二ツ橋 和樹 さん
入選	夕涼み	板山 高久 さん
	お堀と子供達	遠藤 恭範 さん
	狭間からの風景	小泉 雅代 さん
	明日に向かって	神野 友紀 さん
	短冊	藤本 紗貴子 さん

写真コンクールの部【ジュニア部門（小中学生）】

賞	作品名	入賞者
最優秀賞	藤川のほとり	酒井 崇太 さん
特別賞	おさんぽの帰り道	小林 杏釉乃 さん
優秀賞	今でもしようされている、きねんかん	齋藤 文奏 さん
	雨上りの横丁	新津 太一 さん
	初めての撮影	益田 琉亜 さん
入選	今と昔	網倉 まり子 さん
	最後の日の山交	飯島 諒 さん
	まちからみえるやま	遠藤 笑毬 さん
	きょうりゅうのせなか	小田切 陽南 さん
	信玄	名取 愛桜 さん

審査総評

今回「好きずら !? 甲府」写真コンクールにたくさんの応募をありがとうございました。コンクールに応募するために、改めて甲府の街を見て、いろいろな発見があったと思います。応募した皆さんの写真を見て、町並みの中に甲府らしさを見つけようとアレコレ苦労している姿が目には浮かびました。写真を撮ることで人通りがすっかり少なくなった町並みやシャッター街、それを見てがっかりしたか、それとも何かもっと元気な街にしたいと考える良い機会にもなったかと思います。

■一般部門最優秀賞 功刀すみ子（エ・キ・マ・エ 真夜中の宝石）

雨の夜に濡れた街路に映る夜景が甲府の地場産業の宝飾品を連想させた美しい作品になっています。

■一般部門特別賞 長沢 初（遠い記憶）

子供の頃に連れて行ってもらった昔懐かしい繁華街を B/W プリントにして懐かしさを強調しています。

■一般部門優秀賞 倉茂 花苗（夜の街、甲府）

以前の甲府の夜の街を知る者にとっては懐かしく感じる灯ですが人々の雑踏がないので更に郷愁を感じます。

■一般部門優秀賞 ニツ橋 和樹（時代の昇龍）

甲府城の石垣を登り龍のようにとらえて石と柵のディテールが、龍が力強く天に登るように見えて面白い表現になりました。

■一般部門優秀賞 小牧 千佳子（another street）

現実の街路とウィンドウに映る世界の対比が、シンメトリーな構図ではなく映る側を大きくし、ガラスの内側に中で働く人がかすかに透けて見える事で面白い効果が出ています。さらに、現実風景と映り込んだ風景の自転車の車輪と人物と窓枠がトボけた人の顔に見えるのも面白いです。

■ジュニア部門最優秀賞 酒井 崇太（藤川のほとり）

川のほとりが、発展した甲府市街地の一画とは違い川と石垣と木橋が情緒ある落ち着いた感じを表現されていて中学生とは思えない大人の視点を感じます。

■ジュニア部門特別賞 小林 杏釉乃（おさんぽの帰り道）

撮影した時間帯が夕暮れ時で、なんとも言えないホンワリとしたものを感じます。現代と過去の雰囲気とうまく写し込んだ作品になっています。

■ジュニア部門優秀賞 齋藤 文奏（今もしようされている、きねんかん）

写真のテクニックも構図もしっかりした作品です。建物の撮影は垂直に構えることが大事で、ジュニアでそれが出来ているのは素晴らしいです。

■ジュニア部門優秀賞 新津 太一（雨上りの横丁）

夜の横丁の夜景を低いカメラアングルで撮影しているので水に映っているイルミネーションが綺麗です。

■ジュニア部門優秀賞 益田 琉亜（初めての撮影）

初めて撮影した写真が、甲府開府 500 年にからませてあり銅像と背後の建物のバランスが良く、初めての写真とは思えない小学低学年生の作品です。

一般部門（高校生以上）表彰式 2019 年 12 月 2 日（月）甲府市役所 1 階市民プラザ市民活動室



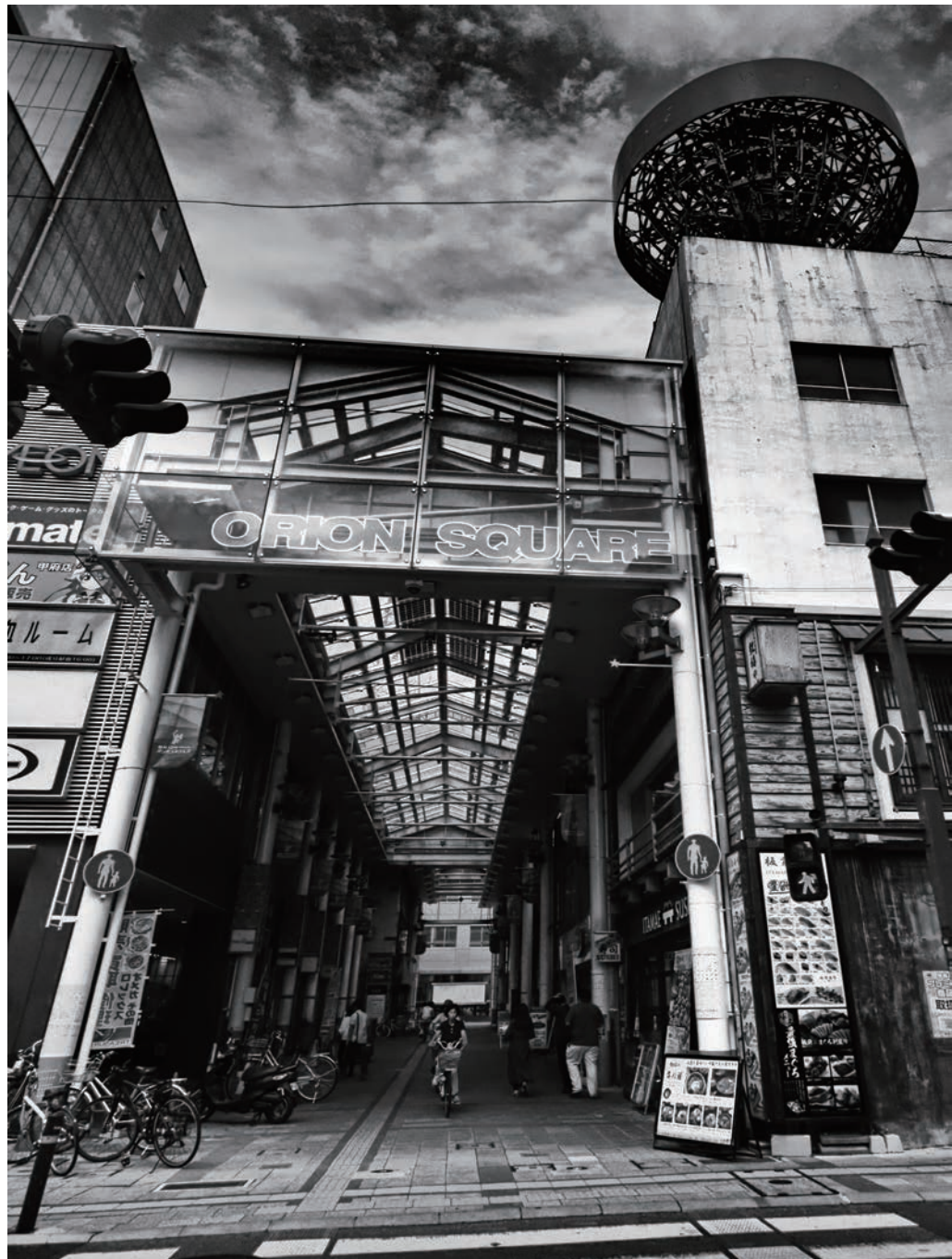
ジュニア部門（小中学生）表彰式 2019 年 12 月 2 日（月）甲府市役所 1 階市民プラザ市民活動室



一般部門（高校生以上） 最優秀賞 エ・キ・マ・エ ～真夜中の宝石



一般部門（高校生以上） 特別賞 遠い記憶



一般部門（高校生以上） 優秀賞 夜の街、甲府



一般部門（高校生以上） 優秀賞 another street



一般部門（高校生以上） 優秀賞 時代の昇龍



一般部門（高校生以上） 入選 夕涼み



一般部門（高校生以上） 入選 お堀と子供達



一般部門（高校生以上） 入選 狭間からの風景



一般部門（高校生以上） 入選 明日に向かって



一般部門（高校生以上） 入選 短冊



ジュニア部門（小中学生） 最優秀賞 藤川のほとり



ジュニア部門（小中学生） 特別賞 おさんぽの帰り道



ジュニア部門（小中学生） 優秀賞 今でもしようされている、きねんかん



ジュニア部門（小中学生） 優秀賞 雨上りの横丁



ジュニア部門（小中学生） 優秀賞 初めての撮影



ジュニア部門（小中学生） 入選 今と昔



ジュニア部門（小中学生） 入選 最後の日の山交



ジュニア部門（小中学生） 入選 まちからみえるやま



ジュニア部門（小中学生） 入選 きょうりゅうのせなか



ジュニア部門（小中学生） 入選 信玄

